

さくら湯の思い出

前川敏光（六七歳）

二年ほど前、私は息子と幼稚園児の孫娘を連れてふるさとのさくら湯に入りました。その日は冬至の頃だったのかユズが浮かんでいて、孫娘はそれを集めてはしゃいでいました。

その時思い出した私のさくら湯エピソードです。

私が小学校一年くらいの頃、母に連れられてさくら湯に来ました。当然母といっしょに女湯です。家の五右衛門風呂と違い、広くて、明るくて、私にはプールみたいに思えました。

昼間の時間帯でお客さんも少なく、空いていたので、さっそく、もぐって遊んでいました。

しばらくして、となり村の母の知り合いのおばさんに連れられて、同じクラスの女の子が入ってきたのです。私はチョットまずいことになったなと思いました。女の子も私に気づきました。女の子が湯船に入りすわるのを見て、私はさっそく横に行って、顔を見ながら固く口止めをしたのです。“このことを学校で言うなよ”って。女の子はニコツとうなずいてくれました。安心した私は、その女の子と元のようにもぐって遊びました。

そう、男の私が、女湯に母といっしょに入ってたなんてことが、クラスの他の子にバレるのは、当時の私にとっては、大変不名誉な事だったので。

あれからもう六十年くらいたちました。その時の女の子も、おばあさんになって、私みたいに孫を連れてさくら湯に来ているかもしれませんね。